

愛知国家戦略特別区域会議（第1回）終了後記者会見

日 時：平成27年9月8日（火）13:48～14:00

場 所：愛知県庁記者会見室

（平副大臣冒頭発言）

本日、第1回「愛知県国家戦略特別区域会議」が開催されまして、先ほど終了いたしました。地方創生特区の第一弾の指定後、愛知県におかれましては迅速に区域会議を立ち上げていただきました。感謝申し上げます。

今回は、農業委員会と市町村の事務分担に係る特例事業、農業生産法人の農地法等の特例事業2件、農家レストラン設置に係る特例事業2件、農業への信用保証制度の適用、保険外併用療養に関する特例事業が2件、有料道路管理の民間開放（通称道路コンセッション）を中心に議論をいたしました。

これらにつきまして議論が整いましたので、区域会議として決定いたしました。速やかに内閣総理大臣による認定に向けて手続きを進めていきたいと考えております。愛知県発の取組が更に具体的に進展し、全国のモデルとなることを期待しております。

今後とも、愛知県をはじめ各特区の区域会議を高い頻度で開催し、具体的事業の「見える化」を強力に推進していきたいと考えております。

私からは以上でございます。

（大村愛知県知事冒頭発言）

今、平副大臣からお話のありましたとおりであります。私ども愛知県がかねてから提案をしていましたメニューにつきまして、この区域会議でゴーサインがでたということでございます。有料道路の民間開放、コンセッションもこれも更に民間事業者を募集していくということで進めていきたいと思っています。平成28年、来年10月頃の事業開始を目指して精力的に作業を進めてまいります。事業者の選定を進めてまいります。

農業関係も平副大臣から言われましたとおり、4点、メニュー全てフルスペックでやっているということです。

保険外併用については名古屋大学病院と国立病院機構の名古屋医療センターも認めていただきました。

有料道路の民間開放、農業、先進医療ということで3点を具体的に進めていきます。

それに加えて私からは、愛知総合工科高校の専攻科の公設民営化、グローバル企業の雇用条件の整備ということで雇用労働相談センターの設置、それから近未来技術実証の支援ということで、自動車の自動走行プロジェクト、無人飛行ロボットの実証プロジェ

クト、ドローン、それからリハビリ遠隔医療・ロボットの実証プロジェクト、こういったことも既にどんどん私どもは取り組んでおりますので、これも様々な法規制の規制改革、緩和、こうしたことについても、またよろしく願いたいということを申し上げさせていただきます。

私からは以上であります。

(質疑応答)

(問) 日本経済新聞の松尾です。

まず、副大臣にお尋ねします。愛知県の特區が、日本経済全体にどういった好影響を与えるか。

県知事に対しては、今後の特區的展開について、例えば都市の再開発とかは、東京でけっこう使われておりますが、リニアを踏まえた再開発とか、規制緩和のメニューをどう使うのか。

また、近未来実証についても、提案がありましたが、今後の特區についての事業展開の方向性等をお願いします。

(平副大臣) まず、私からですが、特に農業分野は国家戦略特區的メニューを全部使ってもらいました。これらを活用して、農業生産法人が農業の大型化がやりやすくなったり、新たな事業展開、また付加価値を生み出すといったところにも、例えば信用保証の融資がついたりしますので、やりやすくなるだろうなと思っています。

地方創生は、一次産業をどう儲かるようにするかということで、その儲かる手法は、生産性を上げるか、付加価値を高めるか、といったところになりますので、この4つのメニューを使っていただいて、成果を出していただきたいなと思います。

併せて、セントレアが近くにあります。今回設置される農家レストランなどは、国内のお客さんを集めていただければと思いますが、海外からのお客さんもぜひ集めていただいて、そこでおいしいものを食べていただいて、また、お土産で持って帰っていただいて、また、インバウンドという意味でも、農業の将来的な輸出産業化という意味でも、新たな需要を生み出すという政策にも合致をしておりますので、ぜひ、この特區、さらには、全てのメニューを使って成果を出していただきたいなと思っています。

医療の方についても、先端医療の革新的な取り組みが今後やりやすくなってきますので、今、日本は様々な分野で、医療分野でも注目をされています。イノベーションが起こりやすい環境ができておりますので、それぞれの地域の医療機関、もしくは研究機関のポテンシャルを最大限に活かして、イノベーションを起こしていただき、将来の日本の経済の成長に繋げていただきたいなと思っております。

(大村知事) 平副大臣は、元々は東京の大田市場の青果物の卸にいたので、そういう意味では愛知の農業に強い、愛知の野菜を大変ごひいきにしてくれて良くご存知なので、今日もさっきの会議で、今回は常滑の2つの事業者ですが、ホントに意欲的で、更にどんどんお客さんと呼んで、どんどん生産を増やしていきたいなど、そういう方々なので、こうした方々をさらに後押しをしまして、とにかく先行事例を作っていくって、それでまたあの（その方々を）目指して頑張っていけるそういったやる気のある農家を支援していきたい。

まあ、愛知県は中部地区最大の農業県ですから、全国三番手です。茨城千葉について、それだけの農業生産がありますので、日本の農業の新たなモデルとして頑張っていきたいと思います。

後は、先進医療についても、これも色々取り組んでいただいておりますが、更に後押しをしていきたいと思っております。

そして都市開発の点は、今日、特に議論はありませんでしたが、愛知県全体、名古屋を含めての指定でありますから、そういった動きもいくつか具体的に、リニアがやって来ますので、そうした点ではこれから政策的にありますので、そういうこともよく、しっかり研究してやっていきたいと思っております。

いずれにしても、先ほど申し上げましたが、私どもは何と言っても、日本一の産業県として、日本経済を支える最強のモノづくりクラスター、モノづくり県としての産業の高度化と、そしてまた人材の育成、そうした面で、今回総合的な面で国家戦略特区に指定していただきましたので、期待に応えられるようにですね、取り組んで頑張っていきたいと思っております。

それから、今日は議論になりませんでしたけど、いよいよ例のMRJのですね、10月下旬に飛ぶということ三菱さんがアナウンスしていただきましたので、具体的にどの週かというのは、今月末にあれすることになりますけど、いよいよそういったものも動いてきますしね、トヨタのFCVミライもスタートし、自動走行も精力的にやっっていこうということでもありますから、そういった先端的な技術、そして産業に、この特区の指定を機にさらに取り組み、前進させていきたいというふうに思っています。

(問) 日本農業新聞の立石と申します。よろしくお願いたします。

先ほど知事のご発言がありましたように、今回県全体の指定ということなんですが、農業のメニュー4つともですね、常滑市という限られたようにも見えるんですけども、このあたりどういった認識なのかを教えてくださいたいと思います。

(大村知事) 今回、農業委員会と市町村の事務分担に関する特例というのを、一年半前に常滑市と市農業委員会と私どもで協議させていただいて、これは迅速にやっっていこうということで合意したことをベースにですね、常滑市で今回の農家レストランをやり、さ

らに農業信用保証をやり、さらに農業生産法人も、全部使いたいという農業生産法人が2つありましたので、これをバックにしたのが常滑市で、まず先行的にやっ払いこうとということでございます。

ですからこれから更に、他にも手を挙げられるところがあれば、速やかに相談していきたいと考えています。

(問) NHKの堀木です。

知事にお伺いします。今回、決まらなかったですが公設民営学校について、文部科学省からも疑問があるやに聞いております。これについて、説得と言いますか説明といたしますか、どのように対応していくお考えでしょうか。

(大村知事) 今日の会議の中でも議論がありまして、ワーキンググループの原委員からお話がありましたが、今日の昼前にワーキングで文科省と御議論いただいたと聞いていますが、我々はこれはこういった形でずっと公設民営をとということで一年前から提案していますので、是非これは実現をしていきたいと思っています。

既に下村大臣と2回、この件では二人で議論しましたが、中々まだまだ入口の感じの議論ですからもっともっと踏み込んで議論をして、是非認めていただくように、引き続き議論を進めていきたいと思ひます。今日も平副大臣からも進めたい旨のご発言をいただきましたので、これからもしっかりとやっ払いいきます。

(平副大臣) はい、議論を加速したいと思ひます。

(以上)